

読みを深め、音読表現を工夫することができる子どもの育成を目指して  
～国語科 1 学年 大きなかぶでの実践～

上越市立春日小学校 教諭 小坂 良範

## はじめに

県小教研が提示している「考える力」の育成のための視点と、当校の研究主題である「自分の読みを深める子どもの育成」を関連させ、国語科の実践に取り組んできた。  
当校では、以下の研究内容で実践を行っている。

- 読むことを支える基礎的な力を育成する有効な言語活動の充実
- 自分の読みを深める単元の構想
  - ・子どもの思いや願いを大事にした学習課題
  - ・ひとり読みが充実するための手立て
- ☆友達の読みと比べて読みを深める練り合い活動のもち方（説明、話し合い中心に）

今年度の研究では、特に練り合い活動に重点をおいている。自分の読みの発表ではなく、自分の読みが相手に伝わるように説明をし、友達の読みと比べながら話し合うことをねらいとしている。

今回は、低学年児童の発達段階をとらえながら、物語文での授業実践を試みた。文章表現に着目して読み取らせるために、「登場人物の気持ちがわかるようにするためには、どのように音読を工夫すればよいか。」ということを考えさせた。

また、自分の読みを相手に伝えやすくするためには、伝える内容をわかりやすくする必要があった。そこで、音読表現の工夫という、児童が日々取り組んでいるものを取り上げた。

さらに、話し合い活動を充実させるために、教師が児童の言葉を汲み取り、それをわかりやすい言葉で、他の児童に紹介することを繰り返した。

以上の視点をもとに、自分の読みを深める子どもの育成を目指し、1 学年単元である「大きなかぶ」で実践を行った。多くの実践が試みられている単元であるが、音読表現の工夫という切り口から、読みを深めさせることを試みた。単元の指導案と実際の授業について述べてみたい。

## 1 単元名          みんなでようもう          ～大きなかぶ～

### 2 単元の目標

- 声に出して読んだり場面の様子を想像したりして、繰り返しながら高まっていくお話の展開や言葉のリズムを楽しむことができる。
  - ・ 場面の様子や登場人物について想像を広げながら読むことができる。
  - ・ 繰り返しの言葉や文章のリズムを考えながら声に出して読むことができる。

### 3 単元について

「大きなかぶ」は、物語教材文である。おじいさんが種をまき、大きく育ててなかなか抜けないかぶを、人や動物が次々に加わって、力を合わせて最後に抜いて終わる。栽培の喜び、協力の喜び、収穫の喜びにあふれた物語である。文章表現の面から見ても、繰り返しのあるリズムカルな文章であり、児童にとって親しみやすいものである。繰り返しのある部分は、単純な同じ繰り返しに加えて、言葉が微妙に変化している。児童が繰り返しの表現を楽しみながら音読を工夫することができる。

そこで、本単元では、音読を中心にして活動を組みたい。音読の表現力を高めるためには、場面の様子や登場人物の気持ちを理解することも大切である。叙述に即して読み取ることや、挿絵から見取ることが必要である。そこで、文章と挿絵から、しっかりと読み取らせ、想像して見ることで、音読表現を豊かにしていきたい。そのために、文章や挿絵から場面の様子や登場人物の気持ちを考えさせる読み取りの時間を十分にとる。

そして、登場人物の気持ちを考えながら、どのように音読をすればよいのかを考えさせたい。

さらに、「けれども」「それでも」「やっぱり」や「とうとう」などの言葉が、物語の要所要所に絶妙に置かれ、それ以前の話の流れを受けて、次に来る結末を子どもたちに予測させている。子どもたちは、「けれども」「それでも」「やっぱり」「まだまだ」「なかなか」という表現が出てくると、この後に「かぶはぬけません。」という否定の意味が出てくることが予想でき、そして予想どおり、まだ「かぶ」が抜けないことを、次の部分を読んで確認する。それを繰り返し、登場人物とともにがっかりしながらも、自分の予想が当たったことを楽しみながら読み進めていくことができる。

そして、最後の場面になって、やっと「とうとう」という表現が出てくる。ここで、子どもたちは、「やった、とうとう抜けるんだ。」と予測しながら読み進み、「かぶは、ぬけました。」という最終の結末に出会い、登場人物と共に喜ぶことができる。物語の展開のかじ取り役のような働きをしているこのような言葉に着目しやすく、より深くこのお話の中に入り込むことができる。

#### 4 児童の実態

読み聞かせが好きで、静かに耳を傾けてお話を聞くことができる。進んで図書室に本を借りに行く児童の姿も見られるようになった。しかし、児童の借りている本を見ると、長い物語文が少ない。また、本を読んでいる児童の姿からは、興味をもった挿絵などの前後の文章を部分的に見て、ストーリー全体を追って読んでいないと感じる。

児童はこれまでに、お話を読む教材を二つ学習してきた。それは、「はなの みち」と「おむすび ころりん」である。挿絵から、わかったことを発表し合う活動や、人物の気持ちを想像して吹き出しに書いたことを発表し合う活動を取り入れてきた。人前で、自分の考えを発表することができる児童は限られている。そこで、発表の前に、自分の思いを書く活動を取り入れることを通して、児童一人一人にしっかりと考えをもたせ、多くの児童が発表できるようにしてきた。

また、一学期は、音読カードを用いて、家庭での音読練習に取り組んだ。意欲をもって取り組んだ児童も見られたが、個人差があったり、平仮名が定着していなかったりする児童ほど、「どのように読めばよいのか」ということを、しっかりと指導していく必要があると感じた。文章をスラスラと読める児童は、文の内容を読み取れている。一語一語をしっかりと読んで言えなければ、内容を読み取れない。「大きなかぶ」では、読みを深めて音読表現を高めていくことが必要であると感じた。

#### 5 単元展開の構想

##### ○ 読みのめあてをもたせるために

児童が、主体的に読みを深めていくために、具体的なめあてをもたせる。各場面の様子や登場人物の気持ちを考える際に、「かぶが、ぬけるまでの様子を読もう。」や「おじいさんの気持ちを考えて読もう。」などといった児童にわかりやすい、読みのめあてをもたせ、取り組ませていきたい。

##### ○ 叙述に即した読みをさせるために

児童の中には、物語文を一通り読んでも、大体の内容を理解することができない児童も多い。

そこで、児童に、言葉のもつ意味や文章の内容をしっかりと理解し、想像を広げて読ませていくことが必要であると考えた。

児童が、主体的に読みを深めていくために、具体的なめあてをもたせる。単元全体を通しておじいさんの願いや気持ちに着目した読取りをさせたい。各場面ごとに、おじいさんの気持ちを吹き出しに書いたり、簡単な動作化をしたりすることを通して、おじいさんの願いや気持ちを考えさせていきたい。

また、「けれども」「やっぱり」などの言葉については、繰り返しである所とそうでない所とを読み比べて妙味を感じさせたい。さらに、場面を変化させる役割があることに気付かせるために、各場面の学習終了後に、授業で用いた、拡大した文章を教室に掲示して、場面の移り変わりを感じさせたい。

## ○ 想像を広げるために

### (1) 挿絵の活用

物語文に親しむという視点からも、文と挿絵を照合させて読み進める姿勢を身に付けさせていきたい。特に、「かぶをおじいさんがひっぱっておじいさんを……。」という繰り返しの場面では、文章だけでは混乱する児童もいると考えられる。そこで、挿絵を見ながら、文を読み進めていくようにしたい。

また、文から想像を広げるだけでなく、挿絵のかぶの大きさや、おじいさんの表情などから、場面の様子や登場人物の気持ちを想像させる。

### (2) 簡単な動作化

詳しく場面の様子を読み取る際には、簡単な動作化を取り入れて、想像を広げさせる。動作化することによって、登場人物の気持ちと自分の思いとを重ね、自分のこととして捉えさせることができる。動作化は、読み取るための手段であるという視点を大切にしながら、時間をかけすぎないようにしたい。また、動作をする友達の動きをみることにより、場面の様子を想像したり、文の意味の理解を深めたりする。

### (3) 体験の想起

幼稚園や保育園などでの芋掘り体験など、人と協力しやり遂げた自分の体験をもとに、登場人物たちが、どんな思いをもって、かぶをぬこうとしたのかを想像させたい。

## ○ おじいさんの思いや願いがわかる音読表現をするために

### (1) 大事にしたい言葉に着目した読み

場面の様子や登場人物の気持ちを想像することを通して、大事にしたい言葉を明確にする。大事にしたい言葉を意識することにより、自分なりに工夫して音読表現をすることができると考える。また、その叙述から自分がどのように、読み取ったかが明確になる。

### (2) いろいろな読み

「大きなかぶ」は、リズム感があるので、子どもたちにとっては、比較的覚えやすい教材であり、音読にも適している。強弱、はやさ、抑揚、声のトーンなどを工夫して音読したい。また、音読の仕方をそれぞれ紹介し合い、いろいろな読み方があることに気付かせる。驚きやうれしさの表し方にも、いろいろあることに気付かせたい。

## 6 単元の指導計画 (全9時間)

| 次(時)     | ○主な学習活動                                                                         | 児童の意識の流れ                                                    | 評価(観点)                                                        |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| 1<br>(2) | ○全文を読み、大体の話の流れを知る。<br>・場面分けをする。(1～9)<br>・感想を書き、発表し合い、おじいさんの気持ちを考えて読んでいくことを確認する。 | ・たくさんの登場人物が出てくるな。<br>・みんなで協力して、かぶをぬいたのだな。<br>・かぶが、ぬけてよかったな。 | ・物語に興味をもち、初発の感想をもつことができたか。(関)                                 |
|          | ○音読の練習と、新出漢字や難解な語句の確認をする。<br>○登場人物を確認する。                                        | ・「まご」ってどんな意味かな。<br>・誰が出てくるのだろう。                             | ・新出漢字や語句を理解することができたか。(言)                                      |
| 2<br>(5) | [本時]<br>○かぶを植えようとしているおじいさんの気持ちを考え、気持ちがわかるように工夫して音読する。(第1・2場面)                   | ・おじいさんは、かぶに甘く、大きくなってほしいと思っていたのだな。<br>・どこを工夫して読めばいいかな。       | ・自分が大切にしたい言葉を見つけて理由を言うことができたか。<br>・自分なりに工夫して読もうとすることができたか。(読) |
|          | ○かぶがどうして抜けないかを考えながら、おじいさんの気持ちがわかるように音読する。(第3・4場面)                               | ・おばあさんも、かぶを抜きたいのだろうな。<br>・どうやって読めばいいかな。                     | ・文と挿絵から、呼びにいたり、手伝いに来たりする登場人物の気持ちを考え、工夫して読むことができたか。(読)         |
|          | ○かぶを抜こうとする、おじいさんたちの気持ちを考え、工夫して音                                                 | ・まごと犬も一生懸命に引っ張っているな。                                        |                                                               |

|          |                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                      |                                                         |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
|          | <p>読する。<br/>(第5・6場面)</p> <p>○簡単な動作化をして、誰が誰を引っ張っているかを、しっかりと確認しながら、引っ張っている一人一人の気持ちを考え、工夫して音読する。<br/>(第7場面)</p> <p>○最後にねずみが手伝いにきてから、かぶが抜けたことを読み取り、かぶが抜けた時のおじいさんたちの気持ちがわかるように工夫して音読する。<br/>(第8・9場面)</p> | <p>・その様子をどうやって読めばいいかな。</p> <p>・強い力で抜こうとしても、抜けない。かぶは本当に大きいのだな。</p> <p>・力いっぱい引っ張っても抜けない様子をどんなふうに読めばいいかな。</p> <p>・ねずみは、小さいけれど、かぶを抜くためには、必要だったんだな。</p> <p>・かぶが抜けてうれしい気持ちをどうやって読もうかな。</p> |                                                         |
| 3<br>(2) | <p>○音読発表会に向けて練習をする。</p> <p>・自分が読みたい場所を決めて、練習する。</p>                                                                                                                                                 | <p>・自分が大切にしたい言葉をもとに、場面の様子や登場人物の気持ちが表れるように音読をしよう。</p>                                                                                                                                 | <p>・場面の様子や人物の気持ちを考えながら、工夫して音読をしたり発表したりすることができたか。(話)</p> |
|          | <p>○音読発表会をする。</p> <p>・感想を話し合う。</p>                                                                                                                                                                  | <p>・友達と協力して、音読をしよう。</p>                                                                                                                                                              |                                                         |

## 7 本時の指導 (3 / 9 時間)

### (1) ねらい

かぶの種をまき、大きく育った時のおじいさんの気持ちを想像し、自分が大切にしたい言葉を見つけ、工夫して読もうとすることができる。

### (2) 研究主題とのかかわり

本時においては、文章表現から読み取ったおじいさんの気持ちが表れるように自分が工夫して音読したい言葉を見つける。叙述や自らの体験に基づいて、その言葉をどのように音読したいか、自分の考えをしっかりともち音読練習することが、読みが深まった姿と考える。その姿に迫るために、次の手立てをとり、学習を進めていきたい。

#### ① 文章表現に着目した読み取り

おじいさんの会話や行動の中から、気持ちが表れている部分に着目する。おじいさんは、どんな気持ちで種をまいたのかを、「あまい あまい かぶになれ 大きな 大きな かぶになれ」という箇所から、読み取らせたい。「あまい」と繰り返しの言葉のある「あまい あまい」では、どう違うのかを考えさせる。

#### ② 大切にしたい言葉に着目した音読

おじいさんの「あまい大きなかぶを育てたい。」「大きなかぶが、できてうれしい。」という気持ちに気付かせることを通して、自分が大切にしたい言葉をはっきりさせたい。そして、その理由を自分の言葉で表現させ、おじいさんの気持ちがわかる音読ができるようにする。

1年生の今の段階では、自分の思いをわかりやすい言葉で表現するのは、難しいため、教師が児童の思いを汲み取り、わかりやすい言葉で紹介するように努める。紹介することにより、おじいさんの気持ちを大切にしたい読みを深めることができると考える。

#### ③ 音読練習の場の工夫

全児童が、自分の読みを練習するために、二人ペアを作る。聞き手がいることにより、自分の読み方を表現したり、友だちとの表現の違いを実感したりできると考える。

(3) 展開

| 時間 | ○学習活動 ・予想される児童の反応                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | ◎支援 ◇評価 ・留意点など                                                                                                                                                                                               |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5  | ○範読を聞いて、本時に学習する場面を音読する。<br>(P 7 6 L 1 ~ P 7 7 L 3)                                                                                                                                                                                                                                                                                              | ◎全員で声をそろえて読ませる。<br>・範読は、感情を込めずに読む。                                                                                                                                                                           |
| 10 | ○本時の学習のめあてを確認する。<br><div>おじいさんの願いや気持ちを考えて読みましょう。</div><br>○たねをまいた時のおじいさんの気持ちと、大きなかぶができた時の気持ちについて考える。<br>・あまいあまいかぶを育てて、食べたいと思った。<br>・大きなかぶにして、みんなで食べたいと思った。<br>・大きなかぶになるように、水やりをがんばろう。<br>・あまいかぶになってね。<br>・大きな大きなかぶになってね。<br>・かぶの声を聞いたり、話しかけたりした。                                                                                                | ◎どうして、大きなかぶになったのかを、考えさせる。<br>(2) - ①<br>・おじいさんになりきって考えさせるために、簡単な動作化をする。<br>・かぶは、どれくらいの大きさであるのかを、イメージできるように、大きなかぶの絵を用意する。<br>◇おじいさんが、種をまいている時の気持ちがわかったか。<br>(発言・シート)                                          |
| 20 | ○どの言葉を大事にして、読みたいかを考え、その理由も発表する。<br><div>おじいさんの気持ちがわかるように、工夫して読みましょう。どの、言葉を工夫して読みますか。そのように読むわけも言いましょう。</div><br>・「あまい あまい」のところ。<br>1 回目を普通に。2 回目をゆっくりちよつと大きく読んでみる。あまい感じを出す。<br>・「あまい あまい」を大きな声で読む。<br>おじいさんは、元気だから。<br>たねをまくのが楽しいから。<br>・「大きな 大きな」を大きな声で読む。<br>大きくなってほしいから。<br>・2 回目の「あまい」を小さな声で読もう。<br>やさしく声をかけたいから。<br>・ゆっくりと読んだ方が、一生懸命な感じがする。 | ◎どのようにして読みたいのか、理由を付けて、発表させる。<br>(2) - ②<br>◎なかなか、意見が出てこない場合は、「あまい」と「あまいあまい」や「大きな」と「大きな大きな」では、読み方がどう変わってくるかを考えさせる。<br>(2) - ①<br>・教師が、児童の言葉を汲み取り、わかりやすい言葉で紹介する。<br>◇大事にしたい言葉に印をつけ、その理由を話すことができたか。<br>(発言・教科書) |
| 10 | ○自分なりの読み方で練習する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | ◎自分なりに工夫した読み方をしている児童を、全体の前で発表させる。<br>(2) - ③<br>・ペアで音読練習をする。<br>◇自分なりの読み方で、音読をしようとしているか。<br>(発言)                                                                                                             |

8 実践より ～読みを深め、音読表現を工夫することができる子どもの育成。～

○本時のねらいにせまるポイント

ポイント1 おじいさんが、かぶの種をまいているときの気持ちを考える。



文章中の言葉に着目したり、あさがおを育てた経験をもとに、子どもたちは、かぶを植えているおじいさんの気持ちを想像し、学習シートに書き込んでいった。

「あまいかぶになれ。」「大きなかぶになれ。」や「早く大きくなってほしい。」などを書く姿が見られた。簡単な動作化も取り入れ、おじいさんの気持ちをより想像できるようにした。

しかし、二つの面において課題も出た。一つは、叙述に即した読み取りである。

「あまい」⇔「あまい あまい」

「大きな」⇔「大きな 大きな」とを比較する学習活動の時間を十分に確保して、より言葉に

着目させる必要があった。もう一つは、行間の読みである。

1と2の場面の間には、長い時間が経過していた。この間に、おじいさんがどんな世話をしたかを想像してみると、より気持ちに迫ることができたと考える。

ポイント2 大事にしたい言葉に印をつけ、その理由を話す。

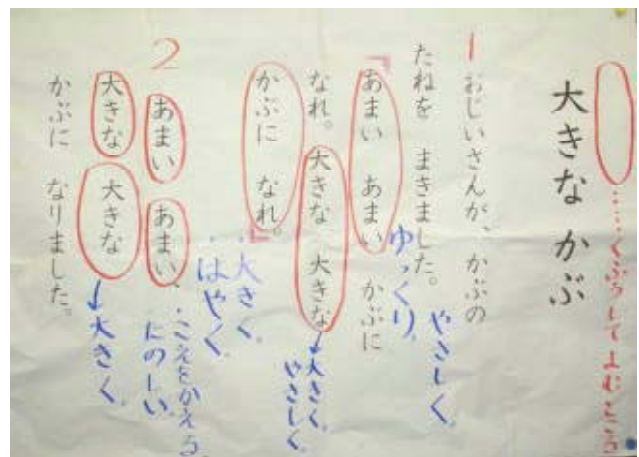


「文中の、どの言葉を工夫して読みますか。」「その、わけも言いましょう。」という教師の発問で、子どもたちは、教科書の工夫したい言葉、大事にしたい言葉を丸で囲んだ。

それを確認するために、子どもたちにどんどん発表させた。「ゆっくり、長く、大きく。」などと、いろいろな意見が出た。しかし、どこに丸をつけたかの確認が長すぎて、学習課題に対する子どもの意識が、弱まる様子が見られた。ここでは、まず子どもを前に出して「演技」させてみるが必要であった。まず、やってみさせて、その工夫を考えていった方がよかったといえる。

大事にしたい言葉に印をつけ、音読表現を工夫する場面では、子どもなりに工夫した読み方をもつことができていた。しかし、子どもたちからは、その言葉を選んだ理由がでてこなかった。理由までを求めることは、難しかったようである。授業の前半部分で読み取った内容を生かしきれていなかったといえる。理詰めで理由を考えさせることよりも、どんどん子どもに音読をさせたり、劇化をさせたりすることを通して、子どもが感じたことを、表現させた方が様々な意見が出たと考える。

音読の工夫も、漠然としたものにならないよう、日々の言語的活動で、読み方を取り上げていた。しかし、読み方という技法の向上に視点が傾き、文章にかえて読む視点が弱かったことが反省される。



ポイント3 自分なりの読み方で、音読をしようとする。



最後のペア読みも、それぞれの思いで読むことができたが、気をつけて読むところが多く、子どもにとって難しかったともいえる。一文ずつや、「ゆっくり→読む→やさしく→読む」といったように少しずつ段階をふんで読ませたほうがよかった。その段階ごとに上手な子どもを紹介すると、他の子どもも、より工夫して読むことができたと感じた。

授業の最後には、おじいさんのセリフを自分なりに考えて話す子どもの姿も見られた。しかし、一般的なおじいさんの話し方をイメージをしていたとも考えられた。叙述に即した読みから、話し方を考えることは、難しいと感じた。

### さいごに

本時の授業では、子どもの発言から、読み方の工夫がたくさん出てきた。しかし、「大きな声、ことばをはっきり、速さ、笑顔で。」具体的な視点を与えて、読み方の工夫については、絞ったほうがよかった。読み方の工夫を絞り、じっくりと叙述に即した読みをさせ、読み方を考えさせるべきであった。

読みを深めるための音読であったのだが、結果的には、表現読みをねらったものになったともいえる。表現読みをねらうことは、1年生にとっては、高度である。児童の実態に即した構想を練り直す必要がある。

また、授業を通して、子どもの見取りが不十分であった。私の大きな課題の一つは、子どもの意識の流れを読み、授業を組み立てていくことである。授業中に、「子どもは何を思っているのだろう。」「何をしたいんだろう。」「どういう考えで取り組んでいるんだろう。」という視点をもつことが課題である。

日頃の指導が出た授業でもあった。子どもたちの力を正確に捉え、伸ばしていくこと。基本的なことの大切さも実感した。

子どもの姿をよく見ていく必要がある。表情、動作、その子の性格をもっと見ていかなければならない。その姿勢は、授業中はもちろん、授業を構想する時から始まっている。一人一人の子どもを見取っていく姿勢を大切に、授業の構想を練り、実践を積んでいきたい。

子どもと教師が作り上げる授業を目指すためにも、児童理解に励み、子どもの意識をよく見取っていきたい。

今回は、一つの授業を通して、私の指導をご覧いただきました。課題はまだまだあります。日頃の指導の積み重ねが大切です。次回、私が取り組んでいる言語活動について述べさせていただきたいと考えております。どうぞ、ご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。